

車道除雪延長及び除雪車数

地区	平成30年度			平成29年度		
	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)	除雪延長(km)	除雪車台数(台)	1台当たり除雪延長(km)
合併前上越市	779.61	150	5.20	778.07	150	5.19
安塚区	71.68	12	5.97	71.68	12	5.97
浦川原区	73.10	12	6.09	73.10	12	6.09
大島区	33.28	18	1.85	33.28	18	1.85
牧区	714.6	17	4.20	720.1	17	4.24
柿崎区	126.85	16	7.93	126.85	16	7.93
大潟区	81.09	18	4.51	81.09	17	4.77
頸城区	106.39	19	5.60	106.11	19	5.58
吉川区	85.83	13	6.60	85.83	13	6.60
中郷区	43.53	10	4.35	43.53	10	4.35
板倉区	95.92	17	5.64	96.38	17	5.67
清里区	49.65	8	6.21	50.38	8	6.30
三和区	100.50	17	5.91	100.47	17	5.91
名立区	39.98	10	4.00	39.98	10	4.00
上越市全体	1758.87	337	5.22	1758.76	336	5.23

降積雪観測地点、降雪期前に和田小など3ヶ所追加

農政建設常任委員会が5日、平成30年度除雪計画について調査が行われました。

市の都市整備部長や雪対策室長が今年度の計画の概要を説明しましたが、昨冬の苦い経験を踏まえ、除雪機械の整備をいっそう進めるとともに、除雪対策本部の体制強化、除雪業者間の連携強化、降積雪観測地点の追加などについて

明らかになりました。降積雪観測地点として追加されるのは、和田小学校、レインボーセンター、谷浜小学校の3ヶ所です。

委員からは、「雪捨て場の確保にあたり、町内会長にマル投げになっていないか」「車道と歩道の境の排雪についての基準は一応何センチなどの質問が相次ぎました。



【ダイモンジソウ】ユキノシタ科の多年草。漢字で「大文字草」と書きます。この植木鉢の花は大潟区の文化展に出されていたもので、石黒修さんの作品です。花言葉は、「自由」「好意」「情熱」。11月3日、大潟コミプラにて撮影。

私は委員外ではありますが、除雪業者間の連携の中心や降積雪観測地点追加の考え方について質問しました。

雪対策室長によると、除雪業者間の連携強化については、排雪時にダンブや重機の協力を進めていくということでした。観測地点追加は日本共産党議員団も求めたことですが、合併前上越市内についてもまんべんなく観測し、市民に情報提供したいと答えています。

議会は決める前に住民の声を聴くべきだ

妙高、糸魚川、上越の3市議会が5日、合同で研修会を行いました。講師は新潟県立大学准教授の田口一博先生のテーマは「議会の果たすべき役割」でした。

議会改革についてずばり核心をつく主張がいくつもあり、引き込まれました。

その1つは、議会は決める前に住民の声を聴くべきだという主張です。議会後の市民への報告よりも議会前を重視すべき、当然でしょうね。

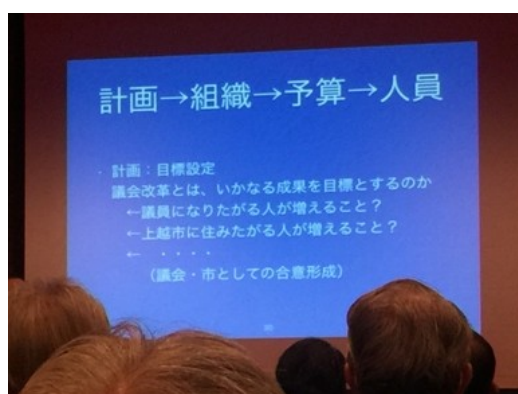
2つ目は、議会はまちの問題発見の体制をつくり、目標を立て、計画的に活動すべきだという主張です。

3つ目は、議会はもっと子ども

たちとかかわることが必要だという主張です。学校に入っていくプログラムをついたらどうかという提案は興味深く聴きました。

4つ目は、議員の間で合意形成していくには、住民や専門家などに立つ人が必要だという主張です。

今後、大いに議論していきたいと思っています。



はしづめ法一の活動レポート

No.1883 2018.11.11
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五三一回 フジさんの戒名

戒名についての話にこれほど心を揺さぶられるとは思いませんでした。桑取地区・土口の清兵衛(屋号)さんちのフジさんの告別式のごじやうす。

話をしたのは霊雲寺住職の真海さんでした。体調を崩し、通夜式は息子さん、お孫さんに任せていましたので、告別式には何としても出てお経を読み、区切りのいいところで、フジさんへの思いをしっかりと語りうと心に決めておられたよごじやうす。

弔電が読み上げられ、喪主の挨拶へと進むのかと思ったら、真海さんのところへマイクが渡されました。そして、「ここでフジさんの戒名についてお話しします」と切り出されたのです。

話の内容を私のメモで再現してみます。フジさんの戒名の「富峰静津大姉(ふほうじょうしんだいし)」の富は、フジさんのフジを漢字で書くなら、「富士山」の「富」になるのではないかと思っただけです。富士は見た目は美しく、裾はうんと大きく広がっている。フジさんは美しく、包容力のあるおばあちゃんだったですね。

静津(じょうしん)の静は「しずか」、津は直江津の「津」。「津」というのは渡し場、舟の集まる場所のことを言います。フジさんは、土口という静かな場所で見なさんが集まる場所を提供してこられた。誰彼となく「あがらっしゃい」と声をかけていた。野菜とか山菜に合った味をつけて振舞ってくれた人でした。だから、フジさんのいる清兵衛さんちは地元だけでなく、他集落からも人がやってきて、毎日、人が絶えないくらい賑やかな家(ごじやう)でした。

私の友達で、マルケイにおった人も必ず清兵衛さんのところでお茶を飲み、世間話をしていきました。年寄りも若い人も、女の人も男も、老若男女で(ごじやう)いますです

ね、心おきなく、寄っていった。言うなれば渡し場のごとくという事です。フジさんは、みなさんから慕われたやさしいおばあちゃん(ごじやう)でした。

私は真海さんの話を聴きながら、フジさんのところで一緒に茶飲みをしていたときのことを思い出していました。

何年か前の秋、フジさんの顔をちよこつと見ていこうと清兵衛さんちに寄りました。裏の池の山手でツリフネソウやキバナアキギリなどが花を咲かせていた頃です。フジさんから、「ありもんしかないけどあがらっしゃい」と言われ、タケノコと昆布の煮物をご馳走になりました。そして、ちよこつとどこか三〇分以上もいてしまふ。こんな感じでお茶をご馳走になったのは少なくとも五、六回はありました。

地元の人たちと一緒にフジさんのところで過ごさせてもらったことも一、二回ありました。いつも気兼ねすることなく飲み食いし、とりとめのない話もできる。このときもゆったりした時間を過ごすことができました。フジさんのところはそういう心地よさがありましたね。

この心地よさは地元外の人も感じていたようです。葬儀後に聞いたのですが、告別式にはマルケイのバスの運転手さんだった方が四人も参列されていました。清兵衛さんちにはマルケイのバス運転手や車掌さんたちが泊まる宿もありました。宿の空気が良くて、休日になっても自分の家に帰らたがらない人がいるほどだったといひます。

「名は体を表す」という言葉があります。真海さんは、「戒名は生きていたとき的人格を表す」と言われました。気持ちがいさしく、多くの人が慕い、集った。だから「富峰静津大姉」。素敵な戒名ですね。私は初めて戒名に惹(ひ)かれました。

あの頃の青春コンサート、今年も会場いっぱい

ニュースフラッシュ



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月31日(水)	11月7日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.057	0.040
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.040	0.053
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.037
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.040

4日、「くびき野フォーク村」主催の「あの頃の青春コンサート」に行ってきました。出場されたみなさん、パロ並みでびっくりしました。初出場の「ヤマユキ・ヒロ」さんが歌ったのは「言葉にできない」など2曲、どこかで見たことがあると思ったら、市議会の本会議場に座っている人でした。今度、質問してみようと思います。「よろしいですか」と訊けば、「オフコース」と答えてくださるはず。『きょうまで生きてきました♪』と歌っていた「なかちゃん」、どこかで会っていると思ったら、吉川区名木山出身の人でした。私が寝る前によく聴く「卒業写真」、「あんず」の2人が素敵に歌ってくれました。吉川区の山間部でコンサートをやってくれた「くろみつ」さんは歌も着ているものもばっちり決まっていたね。いつも三ハ市で会う、メロン栽培の諏訪ちゃんは中島みゆきの2曲、パワー全開の歌でした。写真は「翼をください」の全員合唱。

春よ来い

第五三一回 フジさんの戒名

戒名についての話にこれほど心を揺さぶられるとは思いませんでした。桑取地区・土口の清兵衛(屋号)さんちのフジさんの告別式のごじやうです。

話をしたのは霊雲寺住職の真海さんでした。体調を崩し、通夜式は息子さん、お孫さんに任せていましたので、告別式には何としても出てお経を読み、区切りのいいところで、フジさんへの思いをしっかりと語りうと心に決めておられたよごじやうです。

弔電が読み上げられ、喪主の挨拶へと進むのかと思ったら、真海さんのところへマイクが渡されました。そして、「ここでフジさんの戒名についてお話しします」と切り出されたのです。

話の内容を私のメモで再現してみます。フジさんの戒名の「富峰静津大姉(ふほうじょうしんだいし)」の富は、フジさんのフジを漢字で書くなら、「富士山」の「富」になるのではないかと思っただけです。富士は見た目は美しく、裾はうんと大きく広がっている。フジさんは美しく、包容力のあるおばあちゃんだったですね。

静津(じょうしん)の静は「しずか」、津は直江津の「津」。「津」というのは渡し場、舟の集まる場所のことを言います。フジさんは、土口という静かな場所で見なさんが集まる場所を提供してこられた。誰彼となく「あがらっしゃい」と声をかけていた。野菜とか山菜に合った味をつけて振舞ってくれた人でした。だから、フジさんのいる清兵衛さんちは地元だけでなく、他集落からも人がやってきて、毎日、人が絶えないくらい賑やかな家(ごじやう)でした。

私の友達で、マルケイにおった人も必ず清兵衛さんのところでお茶を飲み、世間話をしていきました。年寄りも若い人も、女の人も男も、老若男女で(ごじやう)いますです

ね、心おきなく、寄っていった。言うなれば渡し場のごとくという事です。フジさんは、みなさんから慕われたやさしいおばあちゃん(ごじやう)でした。

私は真海さんの話を聴きながら、フジさんのところで一緒に茶飲みをしていたときのことを思い出していました。

何年か前の秋、フジさんの顔をちよこつと見ていこうと清兵衛さんちに寄りました。裏の池の山手でツリフネソウやキバナアキギリなどが花を咲かせていた頃です。フジさんから、「ありもんしかないけどあがらっしゃい」と言われ、タケノコと昆布の煮物をご馳走になりました。そして、ちよこつとどこか三〇分以上もいてしまふ。こんな感じでお茶をご馳走になったのは少なくとも五、六回はありました。

地元の人たちと一緒にフジさんのところで過ごさせてもらったことも一、二回ありました。いつも気兼ねすることなく飲み食いし、とりとめのない話もできる。このときもゆったりした時間を過ごすことができました。フジさんのところはそういう心地よさがありましたね。

この心地よさは地元外の人も感じていたようです。葬儀後に聞いたのですが、告別式にはマルケイのバスの運転手さんだった方が四人も参列されていました。清兵衛さんちにはマルケイのバス運転手や車掌さんたちが泊まる宿でもありました。宿の空気が良くて、休日になっても自分の家に帰りがらない人がいるほどだったといひます。

「名は体を表す」という言葉があります。真海さんは、「戒名は生きていたとき的人格を表す」と言われました。気持ちがいさしく、多くの人が慕い、集った。だから「富峰静津大姉」。素敵な戒名ですね。私は初めて戒名に惹(ひ)かれました。

大島、浦川原などの農協祭り、賑わう

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月31日(水)	11月7日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.057	0.040
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.040	0.053
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.037
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.040

3日、大島、浦川原などの農協祭りへと車を走らせました。

このうち大島会場では、無料のおにぎりを1個もらい、昼食としました。くい引きの始まる前、テントの中にいる人やお店を出している人とおしゃべりしました。「あら〜、橋爪さんだ」という声に、まわりの人たちが一斉に反応して、次々と会釈してくださる。そして、「毎回、楽しみにしてるよ」「ばあちゃん、元気そうだね」などという声もありがたいです。写真上の長芋、中野の人たちが中心とか。いい芋でしたね。

続いて浦川原会場。かぼちゃ3個の合計の重さをあてる

競争ではどんぶりまであと100グラムという人が2人もいて、じゃんけんして1位を決めてくださいという司会の声に、ひとりの男性が女性に1位を譲る場面もありました(写真下)。くい引きはどこでも人気でした。



春よ来い

第五三一回 フジさんの戒名

戒名についての話にこれほど心を揺さぶられるとは思いませんでした。桑取地区・土口の清兵衛(屋号)さんちのフジさんの告別式でのことですね。

話をしたのは霊雲寺住職の真海さんでした。体調を崩し、通夜式は息子さん、お孫さんに任せていましたので、告別式には何としても出てお経を読み、区切りのいいところで、フジさんへの思いをしっかりと語りうと心に決めておられたようです。

弔電が読み上げられ、喪主の挨拶へと進むのかと思ったら、真海さんのところへマイクが渡されました。そして、「ここでフジさんの戒名についてお話しします」と切り出されたのです。

話の内容を私のメモで再現してみます。フジさんの戒名の「富峰静津大姉(ふほうじょうしんだいし)」の富は、フジさんのフジを漢字で書くなら、「富士山」の「富」になるのではないかと思っただけです。富士は見た目は美しく、裾はうんと大きく広がっている。フジさんは美しく、包容力のあるおばあちゃんだったですね。

静津(じょうしん)の静は「しずか」、津は直江津の「津」。「津」というのは渡し場、舟が集まる場所のことを言います。フジさんは、土口という静かな場所で見なさんが集まる場所を提供してこられた。誰彼となく「あがらっしゃい」と声をかけていた。野菜とか山菜に合った味をつけて振舞ってくれた人でした。だから、フジさんのいる清兵衛さんちは地元だけでなく、他集落からも人がやってきて、毎日、人が絶えないくらい賑やかな家になりました。

私の友達で、マルケイにおった人も必ず清兵衛さんのところでお茶を飲み、世間話をしていきました。年寄りも若い人も、女の人も男も、老若男女でございましてす

ね、心おきなく、寄っていった。言うなれば渡し場のごとくということですね。フジさんは、みなさんから慕われたやさしいおばあちゃんにございまして。

私は真海さんの話を聴きながら、フジさんのところで一緒に茶飲みをしていたときのことを思い出していました。

何年か前の秋、フジさんの顔をちよこつと見ていこうと清兵衛さんちに寄りました。裏の池の山手でツリフネソウやキバナアキギリなどが花を咲かせていた頃です。フジさんから、「ありもんしかないけどあがらっしゃい」と言われ、タケノコと昆布の煮物をご馳走になりました。そして、ちよこつとどこか三〇分以上もいてしまふ。こんな感じでお茶をご馳走になったのは少なくとも五、六回はありました。

地元の人たちと一緒にフジさんのところで過ごさせてもらったことも一、二回ありました。いつも気兼ねすることなく飲み食いし、とりとめのない話もできる。このときもゆったりした時間を過ごすことができました。フジさんのところはそういう心地よさがありましたね。

この心地よさは地元外の人も感じていたようです。葬儀後に聞いたのですが、告別式にはマルケイのバスの運転手さんだった方が四人も参列されていました。清兵衛さんちはマルケイのバス運転手や車掌さんたちが泊まる宿でもありました。宿の空気が良くて、休日になっても自分の家に帰りがらない人がいるほどだったといえます。

「名は体を表す」という言葉があります。真海さんは、「戒名は生きていたとき的人格を表す」と言われました。気持ちがいさしく、多くの人が慕い、集った。だから「富峰静津大姉」。素敵な戒名ですね。私は初めて戒名に惹(ひ)かれました。

吉川区文化展、農協まつり、今年も賑やか

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月31日(水)	11月7日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.057	0.040
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.040	0.053
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.037
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.057	0.040

吉川区の文化展、農協まつりに3日、行ってきました。天気が良かったこともあって、どちらも多くの人たちでにぎわっていました。

文化展は吉川コミュニティプラザが会場です。絵、写真、押し花、竹細工、絵手紙など小学生から高齢者までのたくさんの作品が展示されました。力作ぞろいでした。今回、初めて作品を出した人も何人かいました。どこに、こんな能力があったのかと感心してしまいます。

カントリーを会場にした農協吉川支店のまつり。カントリー前の広場には今年もアルパカとのふれあいコーナーがあり、子どもたちに人気でした。私が一番楽しみにしていたのは農産物品評会です。ジャガイモ、ネギ、柿、かぼちゃなど上手に作る人が大勢いるんですね。びっくりしたのは黒い柿です。中身は普通の柿と同じ色だとのことですが、一度、食べてみたいものです。それにしても、表面は黒色、なんでこういう色になったのでしょうか。

